

事務事業 No./名 称	■サービス部門 生涯-12 図書館管理運営事業					ザイムスコード及び個別事業名		
	口支援部門					184	資料収集・貸出事業	
主管課	中央図書館 関連課					183	図書館運営事務	
分野名	生涯学習					933	図書館運営事務	
目標 (目標値)	健やかで心豊かに暮らせるまち 豊かな生涯学習社会の創造を目指します 貸出冊数及び資料相談体制の充実					186	図書館管理事業	
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備 考				
	人 口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)				
	世 帯 数	78,131世帯	77,430世帯					
	登録者数	88,094人	122,952人					
運営資源 状 況	決算値	144,480千円	152,018千円					
	(国・県)							
	(負担金等)	1,312千円	1,304千円					
	(一般財源)	143,168千円	150,714千円					
	人員配置数	23.0人	23人					
	人 件 費	208,633千円	207,761千円					
	協 働 の パートナー							
事務事業 運営経費	総事業費	353,113千円	359,779千円					
	市民1人当 りの経費	1,999円	2,039円					
	対象者1人 当りの経費	4,008円	2,926円					
ベンチマー ク(県内外自 治体や民間 団体との比 較値)	団体名	鎌倉市	藤沢市	平塚市	茅ヶ崎市	逗子市		
	資料費(人口比)円	226	152	252	130	372		
	貸出数(人口比)冊	7.12	8.51	6.71	4.21	10.40		
	床面積(基準図書館)	2,576	4,726	4,410	3,157	2,866		
創意・工 夫・課題等 改善状況	課題・問題 点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・中央図書館施設の老朽化・狭小化と再度の耐震診断の必要性が出てきたこと。 ・ほぼ通年開館に近い状態の中、図書館サービスの充実に向け、限られた職員で多くの事業に取り組んでいる。 ・平成23年に迎える百周年についての記念事業として、記念誌の原稿を準備する。 ・「図書館とともだち・鎌倉」との市民協働事業である図書館進行事業を円滑に実施する。 ・多様化する市民ニーズに対応すべく職員の資質向上に努める。						
	創意・工 夫・課題等 の改善点 21年度の 成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 図書館コンピュータシステムの更新により、ホームページを充実するとともに、1度に借りられる資料の数を増やすことで、利便性が向上した。 百周年記念事業としての記念誌の執筆を市民委員と職員が協働で行った。 策定された子ども読書推進計画に沿って、かまくら読書活動支援センターと鎌倉市読書活動推進連絡会がスタートした。						
	未解決の課 題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 司書職職員の高齢化に伴い、サービスを低下させないよう専門職の採用が必要。 中央図書館施設の耐震診断 市民協働事業である「図書館振興事業」が22年度で終了する。その後についてどのように事業展開するか検討が必要。						
	今後の方針 (対応・改 善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 図書館サービスの充実に向け人的資源の確保について検討する。 中央図書館施設の耐震診断を検討するとともに、新中央図書館建設も含めた図書館の将来構想の策定 23年度に迎える図書館開館百周年事業を市民協働事業として展開することについて検討する。						
一次評価(課長評価)					二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了								
評価結果	改善の必要性	長い間利用していない人は一旦登録を休止したため、昨年度に比較して登録者数が減少した。もっと多くの市民が利用できるように周知を図るとともに利用しやすい環境の整備や提供資料の充実が必要である。			評価結果	改善の必要性	図書館は、市民に身近な施設として年代に関わらず利用されている。限られた予算の中で最大限の努力をしていると認識している。今後レファレンス等の専門性の必要な業務の技術を上げ更なる展開が望まれる。	
A	有				A	有		
課長名		古 谷 修			部名・部長名		植 松 芳子	